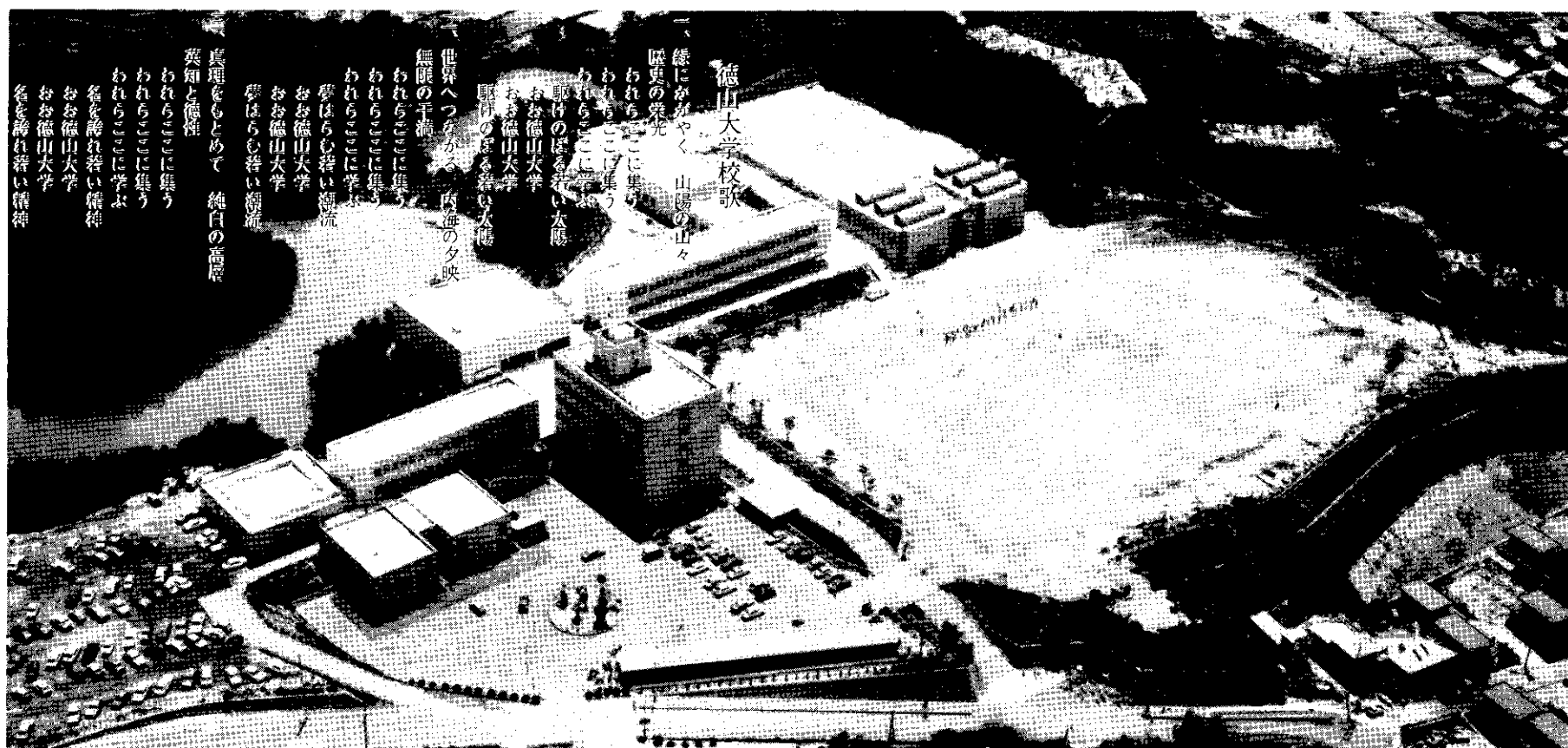




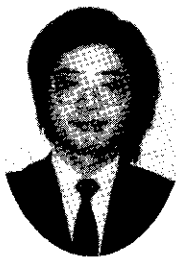
德山大学
校友联谊会

創刊号

発行所 徳山大学校友会
 〒745 山口県徳山市久米
 徳山大学学生課内
 T E L 0834 (28) 0411(代)
 発行責任者 豊岡正行
 編集発行人 藤岡正史
 発行所 富田印刷株式会社



創刊号によせて



徳山大学校友会会長 豊岡正行

徳山大学校友会誌の創刊によせて、一言ご挨拶申し上げます。

母校徳山大学は、いよいよ来年で創立十周年の記念すべき節目を迎えようとしています。恋とご心痛をかけておりました。動に遅滞が生じ、会員の皆様方に多大なご迷

願ひますに、昭和四十六年四月、地域社会の文化的・精神的意志に基づいて開学されて以来、平凡にして非凡な教育の本義に立ち返った「知徳体の一体」の教育と、「文化のU

昭和五十五年二月、校友会発足五周年を記念して、第一回同窓会を盛大に開催しましたことは、皆様方の記憶に新しいところであります。

ターン」という日本文化運動の先頭に立った教育理念を柱として、大学役員、教職員各位の辛苦と努力によって、他に例をみないほどの驚異的な成長を遂げました。

また近年、会員の加入率が減少したため、その折、今田学長先生にお願いして本会の名称を徳山大学校友会と命名していただきました。

また近年は各方面、各分野にその活動の場を拡げ、とくに学生諸君の課外活動においては、さまざまな発展を遂げ、本字もはや、地域社会のニーズに対応すべき使命もより一層強くなっていると痛感します。

本年度卒業生より、全員加入制に移行し、会員の拡大と活動資金の安定という大きな問題点が解決された。私をはじめ役員一同、校友会五年の経過を反省するとともに、本会の目的達成のために

さて、我徳山大学校友会は、昭和五十三年三月第一期卒業と同時にOB会（仮称）として発足しました。

機関紙の発刊に関しては、この創刊号を機

周知のとおり、本会は、会員相互の連繫を密にしてその親睦を図り、併せて母校の発展に寄与することをその目的としております。

会に大学および会員の近況を中心に年に二回発行すること。同窓会は会員相互交流の場として定期的に開催し定着させること。会員名簿

校友会誌の

創刊を祝して

徳山大学学長 今田竹千代

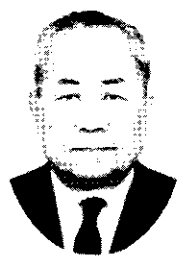
徳山大学は昭和四十六年創設され、来年十周年を迎える訳であるが、これを記念して大に極めて特異な位置を占め、一般の国・公・私

講堂。その他研究室が充実され、学生諸君のために学園生活に必要な諸施設が現実化されるため着々その計画が進められている。

翻つて十年前、第一回生が入学された当時

立の大学の創設の精神と異つてゐる。創設當時の全国の国々私の大、特にいわゆる有名大学において、大学粉争のためほとんど満足な授業が行われず、大学の本命である学問

校友会誌の



徳山大学学長 今田竹千代

徳山大学は昭和四十六年創設され、来年十周年を迎える筈であるが、これを記念して大講堂、その他研究室が充実され、学生諸君のためにも学園生活に必要な諸施設が現実化されるためその計画が進められている。

徳山大学創設の精神は日本の大学史において極めて特異な位置を占め、一般の国・公・私立の大学の創設の精神と異っている。創設当時の全国の国・公・私の大衆、特にいわゆる有名大学において、大学粉争のためほとんど満

翻つて十年前 第一回生が入学された當時 足な授業が行われず、大学の本命である学問の研究と教育とがほとんど満足に行われず国は学生数も僅か百二十数名を出す、教職員も

きわめて少なかったが、この十年の間に、教会は、大学臨時措置法という時限立法を制定職員学生一体の協力によって、在生も二千し、六ヶ月以上授業を遂行出来ない時は直に

三百名を越え、教職員の数も百二十名を越
えるような盛況であり、また従つて卒業生の
した日本の最も憂うべき大学史の中にあつて

總勢も今や千五百名に達し、山口県、広島県を中心として全国各地にそれぞれの職場で活動することを得た学生諸君は幸福であつた。

と云ふのである。このように順調に発展したカリ
その財政的基礎の安定、現代に即応したカリ
キエラムを担当する諸教授陣は地方大学とし
ては誠に稀れな事例であると自画自賛せざる
を得ない。

さて、この十年の間に学問研究の歴史を振り返つて見ると日本科学哲学学会の全国大会、現代中国学会の開催、山本教授の国際会議への出席や藤原賞の受賞その他数え上げれば極

の整備を行ない近く會員に頒布すること。支部結成に關しては、本年度中に広島支部が結成される予定であり、今後他地区への働きかけをし支部結成の協力をするともに、支部活動に助成をすること。学生団体の助成に關しては、執行部をはじめとする諸団体に資金援助とともに、精神面の指導をも行ない本学の伝統を育成すること。また年額一百万円を積立金として校友会独自の事業資金を蓄積すること等主要事業を掲げ推進しております。

そして、十周年記念事業として、講堂兼体育館、学生ホール、屋外ステージ、ＬＬ教室実験心理学教室等を建設する手筈になっており、校友会も本事業に賛同し、卒業生諸氏にご寄付をお願いしているところでございます。

組織的にはまだ不十分な面もありますが、こうした基本理念に立ち、會員各位のご意見ご希望を充分くみ入れ、本会の目的達成のため役員一同一丸となつて努める所存でございます。

最後に、皆様方ますますのご健勝とご活躍を祈念しまして創刊の挨拶とします。

めて多くの貢献を列举することが出来るよう。

また、学生諸君の各種団体、クラブ活動においても極めて活発で、その顕著な例を上げれば、野球部が二度神宮球場に出場し駒沢、東洋、明治という優勝校と対戦し、中国地区に徳山大学ありと全国に汎くその名を知られるに至つたことはまさに本学の誇りとするところであつた。その他柔道、剣道、庭球、空手等ほとんどのクラブが顕著な働きを示したことは各人のよく知るところであり、更にスリング部がアメリカのカリフォルニア大学と交歓マッチを行ひ日米親善を進めたことは特筆すべき功績であつた。

転じて大学祭の発展状況を見ると本年度において実に過去の積み重ねた先輩の努力の結晶が、時に爆発した感があつて、盛大な極め学長の喜びは言葉に表現出来ない位である。卒業生諸君の在学中の下積みの努力に深く感謝する。

今後とも行事にかかわらず、本学の発展のために卒業生諸君が協力支援されんことを切にお願いすると共に、卒業生諸君全員が社会的活動に際して互に緊密な連絡を取り、自らの社会的地位の向上と発展に本会がその威力を発揮し、その目的を達成されんことを望む。

徳山大学

校友会の歩み

- 昭和49年12月14日に徳山大学O・B会(仮称)発起人が行なわれ 同年12月21日に設立準備委員会が発足する。
- 昭和50年3月26日徳山大学第1期卒業式において、会員相互の連繋を密にしてその親睦を図り、あわせて母校の発展に寄与することを目的にOB会発足する。初代会長に第1期生原田重郎氏が選出され実質活動が展開されるが、役員多忙のため、事務活動に遅滞が生じ、同年9月27日に学生部学生課に事務局が移管される。
- 昭和51年、大学ヘント寄贈、大学祭へ助成、卒業生歓送会助成等在学生への後援活動を重点に行なう。
- 昭和52年、会長転勤の為二代会長に第1期生八木馨三氏が就任する。同年大学祭、クラブ会執行部など在校生への後援助成に力を入れるとともに同年第1期生から3期生までのOB会名簿を作成し、全会員に配布する。翌年第4期生の名簿を追録し配布する。
- 昭和54年会長多忙のため第3代会長に第1期生豊岡正行氏が就任する。同年学生団体との懇談会を開催し、後輩への指導、援助を話し合い実行する。同年広島支部結成の要望が高まり、設立準備委員会が発足する。
- 昭和55年2月に第1回同窓会を開催し会員相互の親睦を計るとともに、名称を徳山大学校友会と改称し大学当局の力添えを賜わり任意加入制から全員加入制に移行しました。以上のように校友会は昭和50年発足以来「学生団体への助成」「会員名簿の作成」「同窓会の開催」「機関誌の発行」と着実な活動が続け、さらに昭和55年11月8日に念願の広島支部が結成され支部長に長谷川洋氏が選出され実質活動が展開され、校友会は着実に発展の一途をたどっています。



徳山大学学生部長 佐原 昌弘
校友会事務局長

校友会誌発刊に寄せて

校友会執行部の方々より、事務局のお世話を、大学側がお引き受けしてから数年たつが、当初は、校友会の方も、有名無実の状態であつたし、私どもの方もまた、大学業務に追われて、然程、熱心にやつてはいなかつた。ところが、ここ一、二年、校友会の活動が活発になると同時に、多額の会費を徴収するようになってきた。そこで、事務局もそれに対応するよう責任体制、および組織編制を強いられることになったのである。そんなわけで今年の四月より、私が事務局長をお引き受けし、事務局員には、加藤学生課長補佐、三宅学生課職員をお願いした。そして、その事業内容も、校友会名簿の再版、会費・徳山大学十周年記念事業募金の徴収、機関紙の発行等盛沢山なものになってきた。勿論、これだけ

の仕事をするからには、学内外のOB諸兄に、ご協力を得なければならぬことはいうまでもない。実際に、今までの活動を見ていてもOB諸兄の多大な力添えには、目を見張るものがあった。私も徳山大学の開設時から在籍し一期生の諸君から顔見知り、彼らの活躍ぶりも、よく知っているのであるが、最近の校友会活動ほど、集合体の力を強く感じさせられたことはかつてなかつたことである。それは校友会が一本立した証拠でもあると思う。さて、校友会の目的はいうまでもなく、会員相互の親睦を図ること、母校の発展に寄与することである。要するに、難しい理屈を論じることもしなければ、複雑な手続きも必要としない。会員相互の信頼関係があれば、充分に足りる組織と解することができる。だから、事務局としては、なるべく規則や手続きを簡略化して、小回りのきく運営を心がけたいと思つてゐる。またOB諸兄が、いつ事務局に来て、母校の空気を満喫できるように、事務室を開放的な雰囲気をつくつておきたい。

最後に、母校と校友会の関係についてであるが、私立大学の構成は、教職員、在学生卒業生の三君からなり、この三者は、運命共同体のような関係で、切り離すことのできない存在である。卒業生の総意を代表するのが校友会であるとするなら、おのずからこれら両者の関係は規定されるはずである。ちなみに「私立学校法」第44条の第2項に評議員選出について「当該学校法人の設置する私立学校を卒業した者で年齢25才以上のものの中から寄附行為の定めるところにより選出された者」とあるように、母校出身者が、何らかの形で大学運営に参加することが要求されているのである。

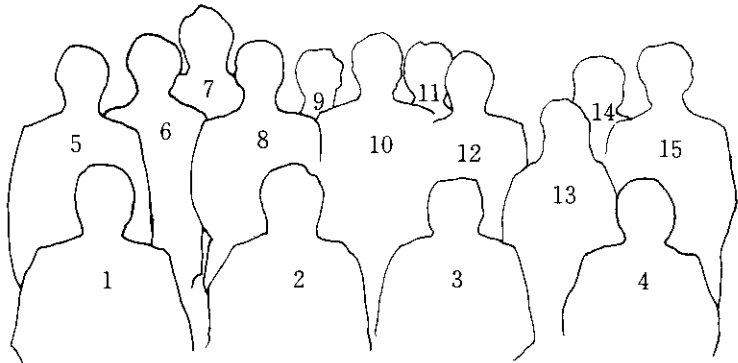
私立大学の特徴は、まさにOB諸兄の強い母校愛に支えられて生れてくるものといえるだろう。

校友会役員紹介

校友会役員名簿



昭和55年10月21日校友会定例役員会にて撮影(大学内談話室)



- | | | |
|---------|---------|-----------|
| 1. 磯村泰将 | 6. 井上基義 | 11. 鹿嶋三生 |
| 2. 豊岡正行 | 7. 三嶋隆史 | 12. 藤岡正史 |
| 3. 瀬川昌文 | 8. 八木馨三 | 13. 石井比左子 |
| 4. 福原良裕 | 9. 近森卓司 | 14. 赤松保夫 |
| 5. 加藤彰良 | 10. 国広憲 | 15. 石川龍彦 |

(徳山大学学生部課長補佐)

	氏名	現住所	電話	勤務先	電話
会長	豊岡正行	熊本郡熊毛町八代1901-1	0833 91-0237	徳山市教育委員会	0834 22-0442
副会長	近間秀之	下松市楠木町	0833 43-4064	幾久屋ホテル	0833 41-1115
〃	磯村泰将	下松市末武中553	0833 41-2443	徳山市役所	0834 22-8313
幹事	赤松保夫	新南陽市富田宮ノ前望陽荘		新南陽警察署	0834 62-0111
〃	国広憲	徳山市戸田3110 防長銘醸ビル2F	083483 3275	中国アセチレン	0834 25-4880
〃	国広哲敏	徳山市栄町2-42	0834 21-0312	徳山市教育委員会	0834 22-8697
〃	瀬川昌文	熊本郡大和町東荷1708	082048 3193	常盤鋼機	0833 44-1135
〃	近森卓司	下松市大字河内1038-39	0833 46-2238	徳山大学	0834 28-0411
〃	福原良裕	徳山市夜市578	0834 63-4315	山口リコー	31-1122
〃	八木馨三	新南陽市福川東町	0834 62-2635	八木水産	0834 83-2705
〃	石川龍彦	山口市大字下小鯖2677	0839 27-2078	徳山大学	0834 28-0411
〃	小坂稔	熊本町清光台団地5丁目	0833 91-3381	協栄生命	0833 43-3445
〃	鹿嶋三生	徳山市西一ノ井手城山AP.A棟2-6	0834 31-7085	徳山大学	0834 28-0411
〃	富吉繁貴	徳山市桜木1-1-43	0834 28-6849	徳山大学	〃
〃	藤岡正史	徳山市櫛ヶ浜元町518-1	0834 25-0243	徳山大学	〃
〃	秋本辰巳	下松市旗岡1丁目 63-1-32-501		徳山大学	〃
〃	三嶋隆史	徳山市扇町M棟105	0834 28-0970	徳山大学	〃
〃	磯村秋好	徳山市櫛ヶ浜東浦町247	0834 25-1064	徳山青果	0834 21-0071
〃	名田孝四郎	新南陽市富田大神297-76	0834 62-0674	山口相互銀行(銀南街支店)	0834 21-8415
〃	島田善正	下松市末武中中村88-3	0833 43-5641	島田車輛	0833 43-5641
〃	原剛	徳山市大字下上1069	0834 63-2377	徳山市役所(菊川支所)	0834 62-2809
会計	石井比左子	下松市旗岡31棟411号	0833 43-9960	徳山大学(図書館)	0834 28-0411
監査	井上基義	徳山市初音町3丁目1-603	0834 21-6744	大正海上火災	0834 21-0389

創立十周年によせて



徳山大学理事長 高村 彦彦

徳山大学が、風光明媚かつ閑静な、久米栗ヶ迫の現地に開設されてから、早くも十年の歳月が流れた。

大学の地方分散は、私の、かねてからの主張でもあり、また、私は徳山市が、将来、経済都市として発展するとともに、教育・文化の面でも充実した文化都市となるためには、知識とともに、正しい道義感・社会観の確立を目ざす大学を設立することが必要であると考えていた。

また、昭和三十年代の後半から四十年代にかけて、全国的に広がった熾烈な大学紛争と教育の混乱は、国民、わけても青年期の子女を持つ父兄の心を、激しい不安に陥れた。そのうち、徳山を中心とする周南各市民の間から、安心して子女を学ばせることができ

経営と、徳山市を始め、周南各市民・各学校、企業等、各方面から絶大な協力を得て、徳山大学は、日を追うて充実・発展の道を歩き続けてきた。現在、学生数は二千三百余名を数え、真摯な研學と運動部のめざましい活動などを通して、次第に社会の信頼を得、卒業生は各職場から好感をもつて迎えられ、経済界の好・不況にかかわらず、毎年ほぼ全員就職の実績を挙げている。

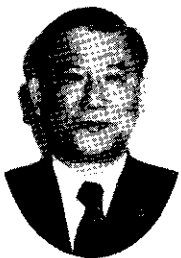
徳山大学の十周年は、ゆくりなくも、山口県が生んだ稀代の偉材・吉田松陰先生の生誕百五十年に当たる。

先生は、講孟創記の冒頭に、「経書ヲ読ム第一義ハ、聖賢ニ阿ラヌコト要ナリ」と述べておられる。私心なき先生の面目羅たるものが、先生、一生の思想・行動の根源を、この一句に見るような心地がする。

鑑照を明神に託し、三十歳にして刑場の露と消えられた先生を、現代によみがえらせたならば、果たして先生は、どのように洞察し、思考し、行動されるであろうか。

徳山大学は、十周年を期して再び初心にかえり、松下村塾の精神に学んで、捨身精進・実践躬行の実を挙げたいと思う。

創立十周年を 迎えるに当って



徳山大学常任理事 岩本 隆次

昭和五十六年は、本学創立十周年を迎える意義深い年に当りますが、これを契機に校友会機関誌が発刊されますことは、まことにめでたく喜ばしいことでもあります。

十周年記念事業としては、すでにご案内のとおり、待望の記念ホールとしての体育館兼講堂、第十号館としての学生会館、語学研究・実験心理学教室、及び屋外ステージなどの建築が行われ、記念誌の発行や記念式典・記念行事の数々（総経費約五億二千万円）が、十一月の大学祭に併せて計画され、徳山大学の新たな歴史の一つが築かれようとしております。

校友会の皆さん方にも、絶大なご協力をいただくようお願いしておりますが、どうぞよろしく願っています。

友の情の玉章に

今宵はひとりぼろ酔いぬ
桃咲く丘は離るるとも
君をあげ給え
いざ吾が友よ、先づ一献
秋月影を酌むもよし
春散る花に酔うもよし
あわれを知るは英雄ぞ
君をあげ給え
いざ吾が友よ、先づ一献

この歌詞は、先般わたしたち中学時代の同窓会で、過ぎ去った五十年の歳月を回想しながら、友と一緒に合唱したものであります。同窓の集いは、お互いが年を取るに従ってその数は減ってきますが、その親しさと懐かしさは一段と増してくるものであります。

徳山大学は、本年度末でようやく第七回卒業生を送ることになります。従って校友会

会員の数もまだ少なく、当面二千百人前後でありましようが、青春の日の友情とその思い出は、返って深いものがありましよう。

友の情の玉章に

~~~~~

ボプラの丘は離るるとも

と、城ヶ丘の地を回想し、ボプラ祭を懐かしむ日は、「邯鄲（かんたん）の夢」で、そう遠くはないと思います。

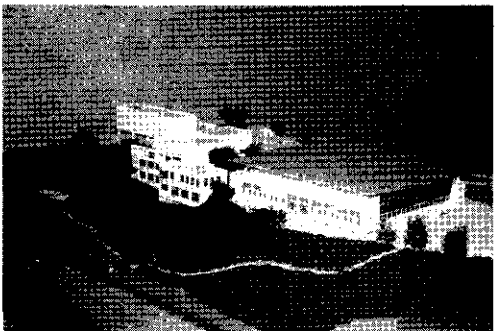
「創業と守政はいずれが難き」という「十八史略」に出る中国の言葉は、宋の太宗が苦楽を共にした侍臣に発した質問であります。

「創業が難い」「いや守政の方が難い」と述べる房玄齡や魏徵に対し、太宗は、「創業の難は往けり。守政の難は、まさに諸公とこれを慎まん」と明言いたしました。

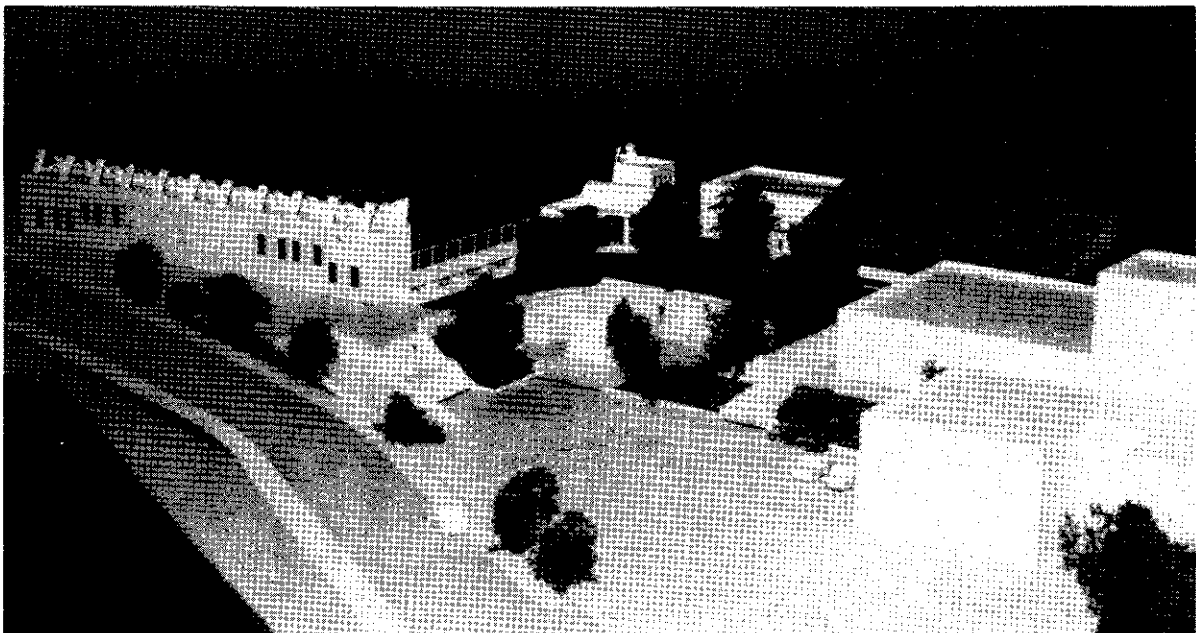
今や創立十周年を迎えるに当り、教職員・学生が諸人一和し、その決意を新たにして本学の充実発展に邁進し、守政の難きを慎しむべき転換の年であろうかと考えます。

校友会会員諸士におかれても、いよいよご健勝で、機関誌の活用とともに、徳山大学の発展と明日の栄光のために、一段のご活躍を心から祈念してやみません。

# 来秋完成体育館、学生ホール etc.



(写真右) 301教室の北側に建設される体育館兼講堂、学生ホール、半円形の屋外ステージなどの完成模型  
(写真上) 北から望む完成模型



## 総事業費

### 5億余円

12月3日起工式

現キャンパスの北、学生用駐車場に建設される体育館は、鉄筋コンクリート（一部鉄骨）造り、約二千平方メートル、地上二階、地下一階、縦四十メートル、横四十一メートル、高さ十一メートルでバレー、バスケットコートなら二面が使用でき、バドミントンコートとしては六面がとれる。コートの周囲には、男女別々のシャワールームや便所、大小四つの倉庫、更には広いステージと控室が配置されている。ステージは、入学式や卒業式、講演会、催物等にも充分活用できるように設計されている。

また徳大生及びOB希望の学生ホールは、鉄筋二階建て延べ七百平方メートル、土地の傾斜を生かし、周囲の景観を配慮した設計で、優雅なヒュッテを思わせる建物である。コーヒーを飲みながら楽しい語らいができる喫茶、談話室を中心に、学生相談室、実験心理学教室、語学研究室などが設けられ、床にはしやれたカーペットが敷かれ、壁面も装飾をこらされゴージャスな憩いの場、ふれあいの場となるであろう。

このほか、体育館と学生ホールとの間に、半円形の屋外ステージが設けられ、スピーチ、コンサート、集会等多方面に利用でき、青春の夢をはぐくむ広場が計画されている。

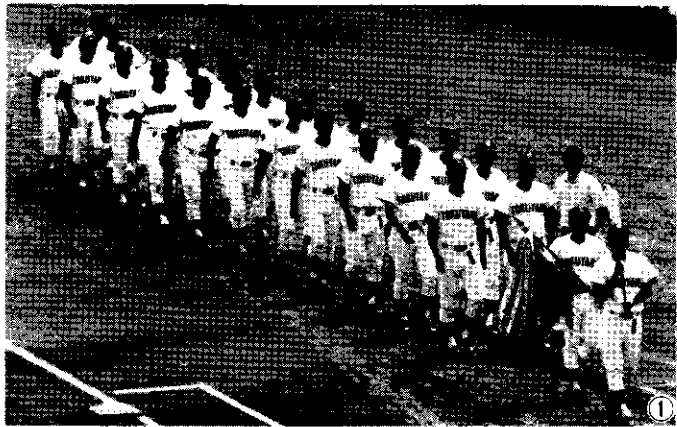
体育館、学生ホールが完成する来秋には華やかな姿を遂げた学舎がみられ、それは躍進への礎となることであろう。

## 募金のお願

十周年記念事業の総経費は、約五億三千万円を要します。このうち体育館兼講堂の建設費（約三億二千万円）中、一億円を徳山大学OB、学生のご父兄、教職員はじめ広く各方面からのご寄付をお願いすることにしてあります。つきましてはご出費ご多端のおりからはなはだ恐縮ですが、みなさまからの募金について、格別のご理解ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

り勇気つけられたその日から、良き友人として同級生として楽しく学生生活が送れるようになったわけです。

学生時代の人間的な付き合い、心のふれあいこれが何よりの思い出であり、生涯忘れられない良い経験になると思います。

[illegible]

8/30 第19回全日本吹奏楽コンクール山口県大会（金賞）  
9/28 同中国大会（銀賞）  
※その他のクラブ・同好会も地道ながら着実に発展の途を歩んでいます

※その他のクラブ・同好会も地道ながら着実に発展の途をたどっています。

第一回校友会同窓会開催

昭和五十五年二月十日(日)午後二時、徳山大学八号館において第一回徳山大学同窓会が開催された。出席者八十名、大学側からは、今田学長、岩本常任理事、加藤学生課長補佐、食堂部から、学生時代OBの皆さんが出席された。世話になった有吉さん他三名が出席された。出席者の地区をみると、山口県内、広島を以てはじめとして、北は北海道から南は九州まで(少しオーバーなようだが)と、日本各地から出席という感じがした。しかも、卒業以来六年ぶり、五年ぶりというなかなかの顔もみえた。

記念撮影、学長挨拶、乾杯のあとは、誰もが何年間の空白を補うべく、あちこちで話の花が咲き開いていた。今田学長も前々から楽しみにしておられただけであって、この日より楽しそうに、各テーブルを、廻られ、励ましの言葉をかけ、午後四時半帰路につかれた。思いきり話し、唄い、食堂のおばちゃん(みなさんを代表して)と一期生の歌

同窓会終了後学長を囲んで記念撮影。S.55.2.10



広島支部

結成を目指して

同窓各位におかれましては、いよいよご清栄のことと拝察いたします。母校は開学十年目を迎へ、今や不同の学府として、順調な歩みを進めています。卒業生数は、来春卒者第七期)を含め、二、〇〇〇名を越えようとしており、それぞれ全国各地において、精勤・活躍され、母校の知名度も広まりつつあります。

かような状況下、反面、校友会活動が遅れているため、先輩・同輩・後輩諸氏が、同じ地域に在住・勤務していても、互いに連絡をとることができない、あるいは、母校の現況および在学生の活動状況などについて、知らないことが多々あると思えます。これは愛校精神に燃える同窓生にとって、非常に寂しいことである。

そこで、十年目を契機にして、校友会組織の充実・強化を図るため、具体的に、

- ①卒業生名簿の作成
- ②機関誌の発行
- ③広島支部結成

を当面する課題とし、その計画実施につとめています。特に、支部結成については、同窓が互いに連絡をとり、輪を広げ、親睦を深める意味で、最優先課題だと考えています。地元、山口県に続いて卒業生の多い広島支部が結成され、円滑なる運営を推進し、軌道にのれば、さらに全国的支部への展開が、期待されると思います。

先般、広島支部結成のため、本部から担当者五名が出席し、広島県出身卒業生九名の方々と第一回目の準備会を開催いたしました。

時間前に集合して、料理、飲物等から花、灰皿といったこまごまとした物までチェックをして出席者を待った。このような幹事会の協力によって無事成功に終わった第一回同窓会。現在、OBの皆さんは仕事に追われる毎日でしょうが、一回、二回……と年を追うごとに一人でも多くこの同窓会に出席されることを楽しみにしております。

最後に、この日の同窓会で、五十年二月二十六日より親しんできた「徳山大学OB会(仮称)」が、「徳山大学校友会」と改称したことを報告して終わりたいと思います。(鹿嶋三生)

徳山大学校友会広島支部役員

(校友会支部結成部会 近藤卓司)

|      |      |     |
|------|------|-----|
| 支部長  | 長谷川洋 | 2期生 |
| 副支部長 | 谷田謙二 | 3期生 |
| 副支部長 | 菅原義也 | 5期生 |
| 幹事   | 塚本昌幸 | 4期生 |
| 幹事   | 近岡秀之 | 3期生 |
| 幹事   | 河村幹男 | 1期生 |
| 幹事   | 寺本裕一 | 3期生 |
| 幹事   | 神垣克治 | 4期生 |
| 幹事   | 斎藤守  | 5期生 |
| 幹事   | 田中伸治 | 5期生 |
| 幹事   | 北橋政剛 | 5期生 |
| 監査   | 本部   |     |

連絡は、徳山大学校友会事務局  
0834-28-0411

校友会会員名簿

|     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |     |                                                                                                                                                                                                                                                                       |     |                                                                                                                                                                                    |     |                                                                                                                                                                                                     |     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |     |                                                                                                                                                                                                            |
|-----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第一期 | 赤瀬英敏・赤松保夫・石井磯金氏左子<br>伊藤輝雄・井上津夫・入沢 悟<br>大川和子・浴広 勉・江村俊美<br>川崎秀明・河川芳幸・沖 正明<br>日下大周・国広 憲・河村雅仁<br>桑原経治・小林和生・桜井洋治<br>島田みち子・下瀬 真・杉永敏章<br>杉原真一・角 芳光・瀬川昌文<br>高松秀文・橋田和弘・田中 栄<br>田中雅彦・谷門 明・谷口千代美<br>近藤卓司・豊岡正行・中島哲二<br>永谷幸正・長岡 涉・温品 進<br>服部和美・原田重郎・原田康作<br>久行光博・平岩茂雄・広兼 肇<br>福田雅之・福田義嗣・福永 隆<br>福永信正・福原良裕・福谷徳三郎<br>福山 厚・牧(井上)佳子・三隅富士雄<br>宮田(阿久津)順子・村上 茂・森邦彦<br>八木(田中)馨二・八道 徹・安村 久<br>山田克美・山田幸男・柳 一正<br>吉永彌生・米山伸明・和田康治 | 第二期 | 青木俊雄・浅屋一夫・石川龍彦<br>伊藤克幸・井上基義・大谷制慧<br>岡村源治・兼清知足・倉田宅三<br>河野良二・小林正知・志々田秀彦<br>河野栄治・嶋末訓知・嶋田陣一<br>住村省三・大道 尚・高田 徹<br>武本和子・田中恵夫・田村浩之<br>富吉繁貴・友沢 寛・中山圭司<br>長野正清・中村厚彦・中川 剛<br>野村達夫・林 央・藤岡静策<br>藤岡正史・藤田健二・藤原信策<br>前田芳晴・村田泰通・森岡 貢<br>山根泰尚・山本哲男・山本輝彦<br>庸司孝幸・横見 巧・横溝真典<br>吉岡清子・吉永元昭 | 第三期 | 相本篤志・秋本辰巳・秋山清貴<br>東 正彦・伊藤正保・伊藤久子<br>植村美治・相島茂孝・上田 弘<br>尾崎利明・開作 実・片山勝頼<br>金子親家・兼田ちえみ・河村隆一<br>草川 功・国重幸恵・己斐 章<br>小泉豪敏・郷原 隆・小谷 泉<br>坂本進朗・佐藤公治・佐藤輝彦<br>山時紀彦・白木清雄・先城忠幸<br>竹田敏夫・竹村信義・高松満智子 | 第四期 | 田中克典・田中茂樹・田辺晃至<br>田畑清敏・田村浩司・手島孝子<br>仲 克人・中川 保・中村博之<br>西村武彦・西村 宏・原田 寿<br>弘瀬 政・福田昌道・藤井輝明<br>藤井博史・藤川博史・堀口達也<br>松原隆弘・三嶋隆史・三井一秀<br>三間光樹・溝口由紀子・元山品文<br>森岡藤生・盛重康雄・柳井政司<br>山田和司・山根道春・山本育生<br>山本真也・山本義臣・湯坂敏樹 | 第五期 | 安保文成・石岡寛士・磯村秋好<br>磯村泰将・岩本達也・植田一郎<br>大岩正一・大迫幹雄・大田和明<br>岡崎不二夫・岡村 貞・岡 基晴<br>岡本 浩・尾崎繁夫・梶原義徳<br>上川明彦・川上 豊・川瀬 進<br>川端 裕・木村昌錫・齊藤 研<br>小玉 巧・後藤立男・齊藤憲治<br>佐竹 誠・重村 廉・島川昭彦<br>白井輝二・白砂 修・田中和美<br>田中 稔・田中一成・谷口 孝<br>堤 敏彦・寺尾宗治・鳥居正勝<br>長本敏晴・中上誠一・長弘 譲<br>信吉文重・西村洋平・西山春樹<br>羽場恭一・浜井場勇人・原 剛<br>榎本昭光・平田清太・細谷敏章<br>藤田俊彦・松田好昭・前田高志<br>増本英樹・松永英一・三輪祥司<br>宮内延泰・宮野一三・山迫清信<br>村田武志・矢田英之・山崎祐美<br>山本伸生・横井武光・吉崎祐美<br>渡辺 宏・島田和子・清水順子<br>道原裕子・森重 薫・岩佐寛安<br>岩繁暢宏・岡本 茂・寿山勝己<br>名田孝四郎・福原茂樹・山根誠二<br>大岡章三・上柳幹三・石田裕彦<br>神垣克治・大淵敏彦・中木俊一<br>永井誠一 | 第六期 | 友森寛滋・中嶋教子・中村和美<br>難波俊夫・野崎俊明・豊島一真<br>橋本雅弘・原 敦彦・福田優子<br>藤原英昭・藤原康弘・藤本邦雄<br>藤本 猛・古谷典子・増原省三<br>村上朋栄・山岡英治・山口 厚<br>山口恵子・福永哲士・和田晴幸<br>山口正則・中田 美・草田伸哉<br>青田敏盟・陰山 亘・池田道彦<br>小野健二・前崎健二・吉岡智栄<br>岡村 猛・村岡栄子・菅原美也<br>馬木 猛 |
|-----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

校友会入会のお願

徳山大学校友会は、卒業生全体の親睦と連絡を行い、徳山大学発展に寄与する事を目的としております。  
本目的を達成するために昭和五十五年卒業生より学生及び大学当局のご協力とご理解を賜わり全員加入制にいたしました。昭和五十年から昭和五十四年度卒業生一、五〇〇名のうち、現在会員数は二二〇名という現状であります。会員には卒業生名簿、機関紙(第二号以降)のご送付、校友会同窓会のご案内などを行います。まだ入会されていない方は本目的をご理解の上是非とも入会いただきますようお願い申し上げます。

◎校友会入会方法  
会費(終身会費) 一〇、〇〇〇円を左記銀行へお振り込み下さい。  
一、振込先銀行 山口相互銀行桜木支店  
一、口座番号 00353101011  
一、会費振込先 徳山大学校友会

【あとがき】

徳山大学校友会誌創刊号にあたって、九月の定例役員会で機関紙発行部会を結成し一期卒業生川島文さん、石井比左子さん(旧姓磯金)・国広哲敏さん、二期卒業生上基義さん、四期卒業生磯村泰将さんの協力を得てやっと発行することができました。  
みんな仕事が終わった後のかたてに原稿整理、校正等をしたため、予定より発行日が遅れましたが、ここにおわび申し上げます。共々第2号に期待を寄せたいと思います。原稿をお寄せ下さった諸先生方ならびに校正を手伝っていただいた井上さんに心からお礼申し上げます。(藤岡)

校友会誌についての「意見」感想をお寄せ下さい。  
(校友会事務局まで)